

2022年1月26日（水）
インターネット世界旅行

インド

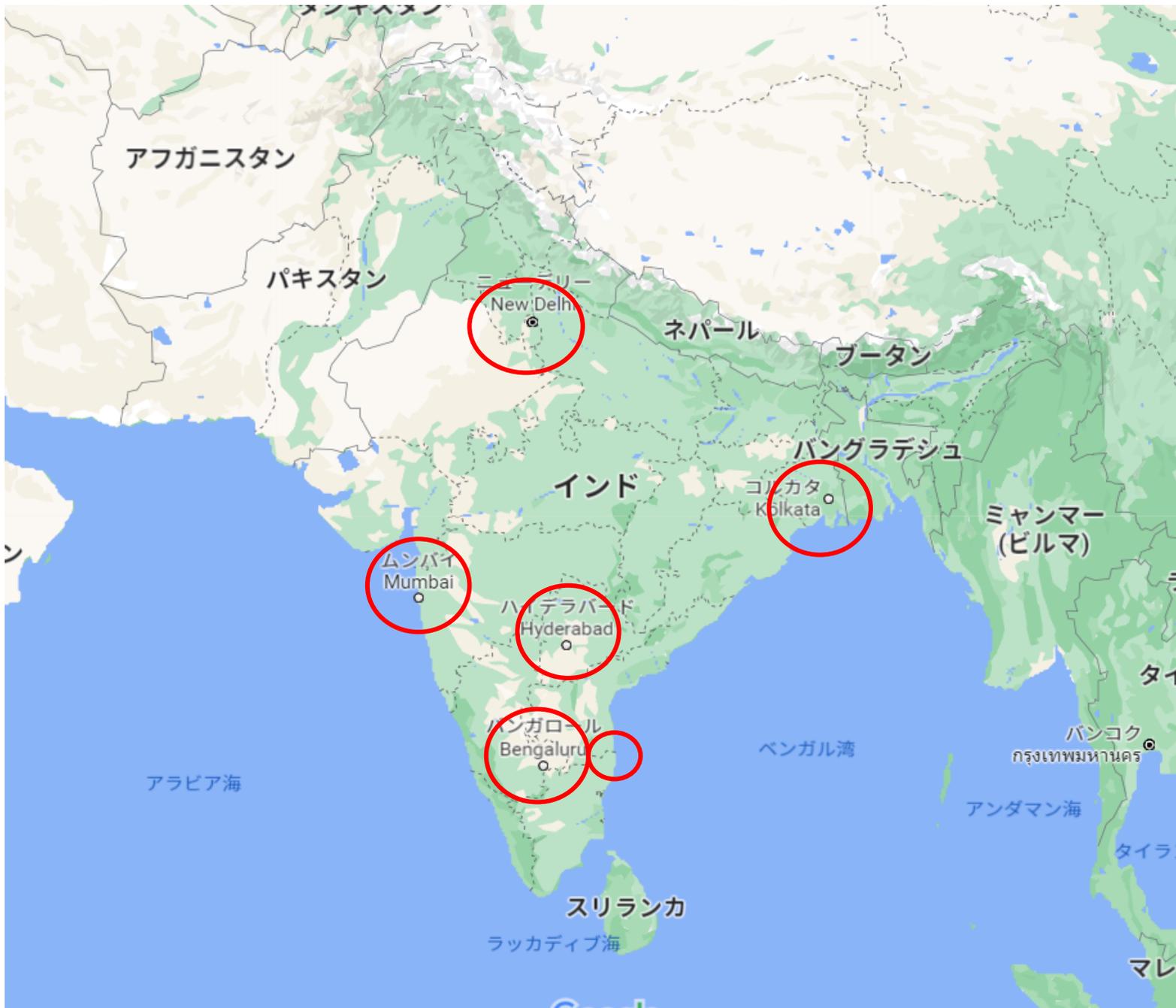
デリー、ニューデリーの巻

吉岡 芳夫

インドの歴史

- インダス文明・ガンジス文明（紀元前2600年頃）
- 古代インドの諸王朝（紀元前4世紀後半）
 - マウリヤ朝マガダ国のインド統一
 - 大乘仏教のおこり（西暦1世紀はじめ）
- インド古典文化の完成（4世紀前半）
 - アジャンター石窟寺院の壁画グプタ朝の成立とヒンドゥー教の確立（5世紀）
- インドのイスラーム化と南インド（10世紀後半）
 - ポルトガルとスペイン（1498年）
- ムガル帝国（1526年～）
 - 英蘭の南インド進出（17世紀）
 - 英仏の進出と植民地抗争（1661年）
 - イギリスによる蚕食とインドの貧困化（18世紀後半）

- イギリス植民地時代（1858年から1947年まで）
 - インド大反乱と英領インド帝国の成立（1857年）
 - インド国民会議派の成立（1885年）
 - タタ鉄鋼で工業大国化（1907年）
 - 2度の世界大戦と
 - インド、ガンディーの登場（1919年）
 - 非暴力・不服従の運動
 - イギリス製品排斥や地税不払いなど多様な反英運動
 - イギリスは新インド統治法を発布
- 第二次世界大戦後
 - 分離独立と戦後インド憲法の制定
立憲君主制のインド連邦として独立（1947年）
 - 非同盟主義
 - 印パ戦争と中印国境紛争
 - 核大国化
- BRICsの一角（ブラジル、ロシア連邦、中華人民共和国）



インドの基本情報.

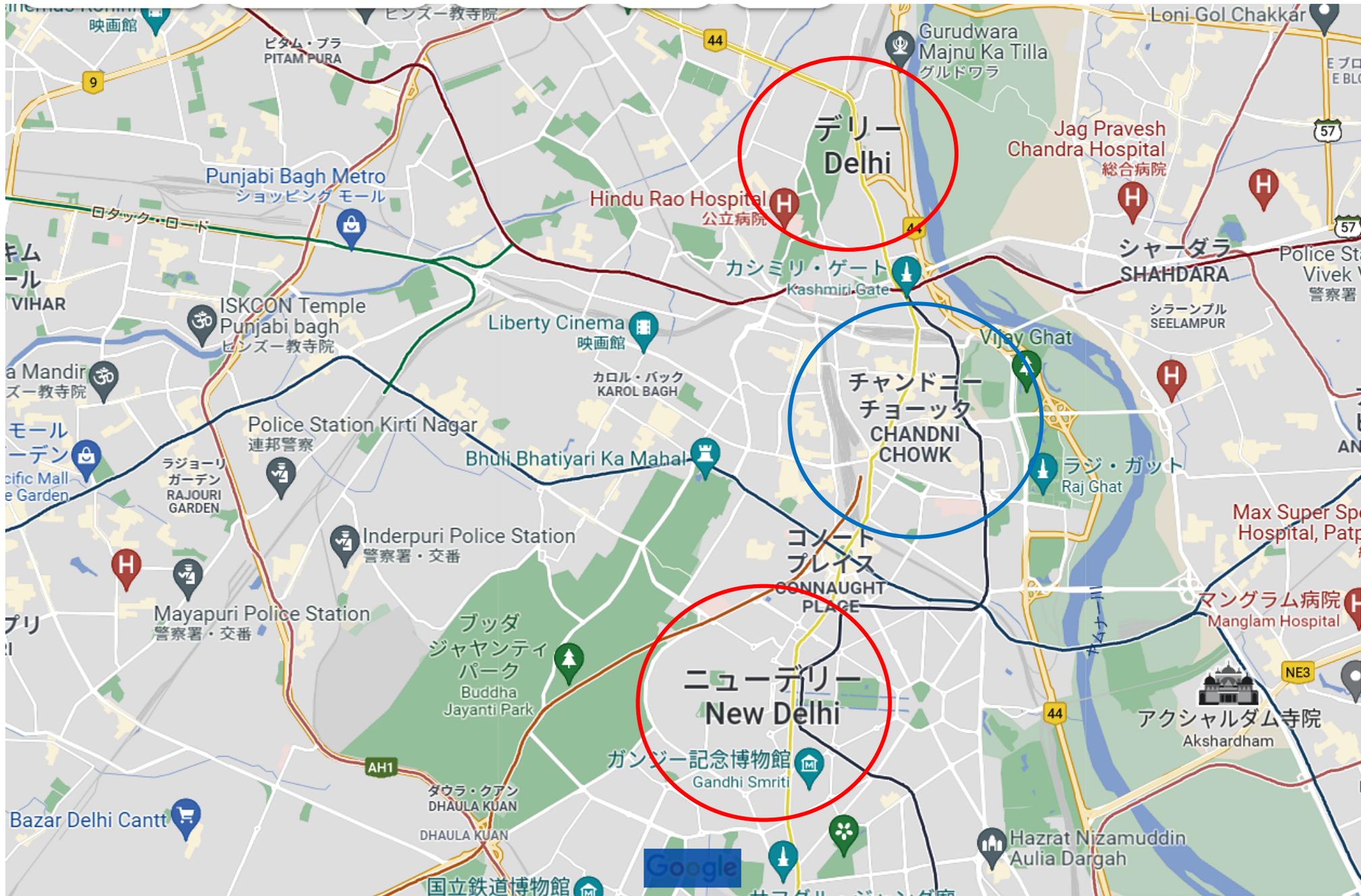
面積. 328.73万km² (日本の8.7倍)
(2017年)

人口. 13億3918万人
(2017年、国連推計)

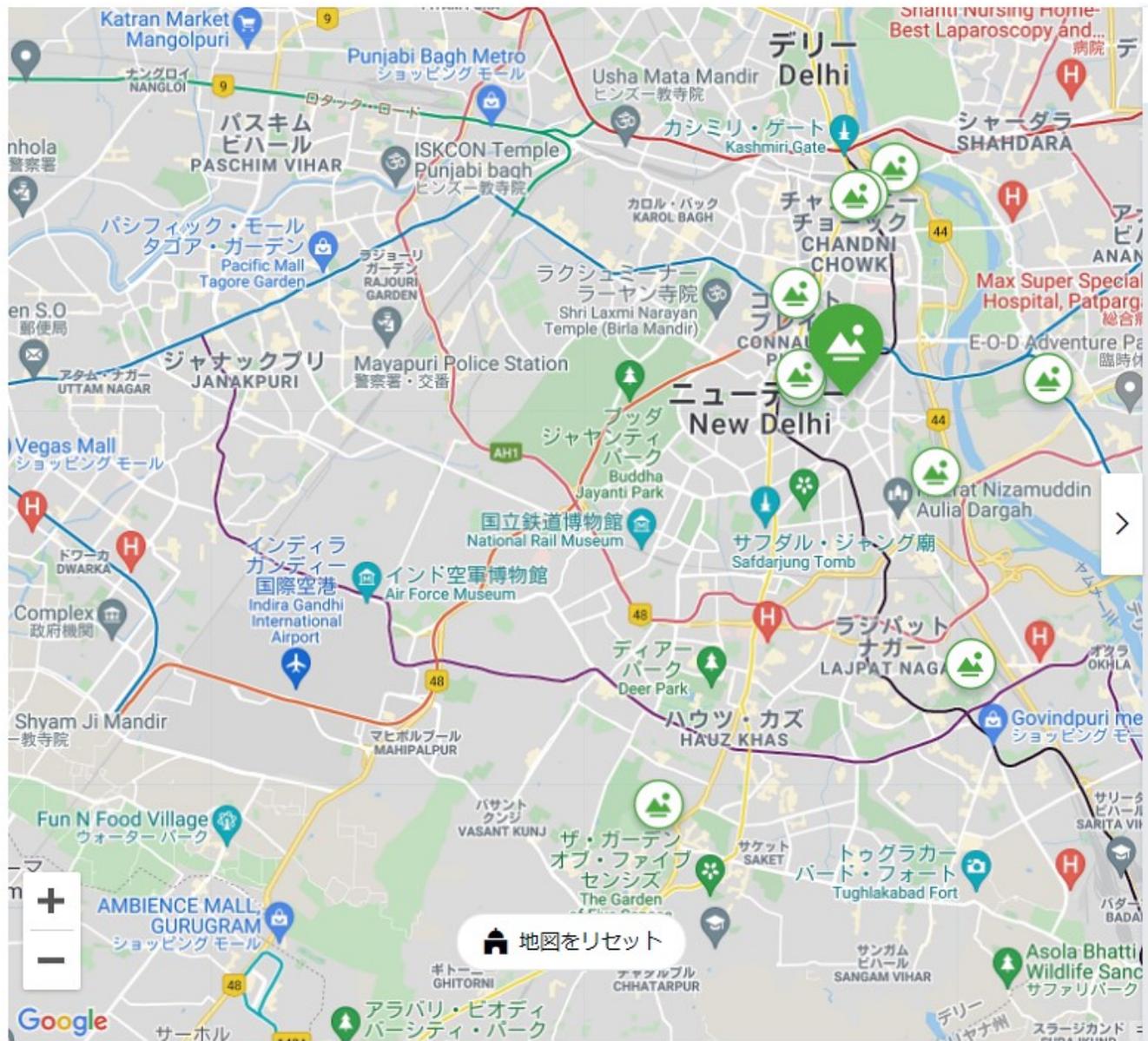
首都. ニューデリー (2570万3000人、2015年推計、世界年鑑) .

主要都市.

ムンバイ2,104万人、
コルカタ1177万人、
バンガロール1009万人、
チェンナイ962万人、
ハイデラバード894万人

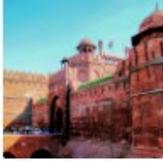
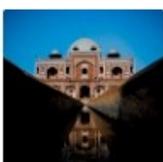


周辺のおすすめスポット



周辺の観光スポット

付近で人気 | 地元の人気スポット | 最寄り

- **赤い城**
4.5/5 レビュー344件
"世界文化遺産" "城"
4.61km
- **クトゥブ・ミナール**
4.6/5 レビュー218件
"古塔" "世界文化遺産"
11.01km
- **ロータス寺院**
4.4/5 レビュー257件
"寺院・神社"
7.68km
- **フマユーン廟**
4.5/5 レビュー266件
"霊園"
3.48km
- **国立博物館**

1 2 3 4 ... 46

周辺の観光スポット

付近で人気

地元の人気スポット

最寄り

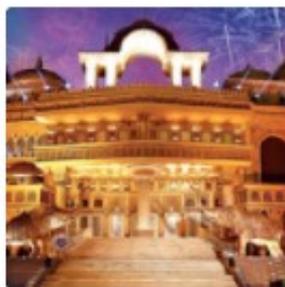


プラーナ・キラ

4.5/5 レビュー47件

"史跡" "城" "宮殿"

📍 1.82km



Kingdom of Dreams

3.7/5 レビュー3件

"公演"

📍 22.6km



Cyber Hub

レビューはまだありません

📍 19.09km

周辺の観光スポット

付近で人気

地元の人気スポット

最寄り

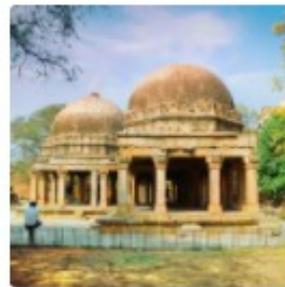


ガンジー記念博物館

4.5/5 レビュー4件

"展示館"

📍 2.04km



ハウツ・カズ・ビレッジ

4.3/5 レビュー17件

"注目エリア" "古い町並み"

📍 7.77km



ラクシュミーナーラーヤ

4/5 レビュー1件

"史跡"

📍 3.23km

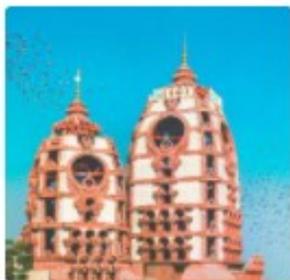
付近で人気

地元の人気スポット

最寄り



📍 3.23km



ISKCON 寺院

4.6/5 レビュー9件

"歴史的建造物"

📍 7.21km



グルドゥワラ・シス・ガ

4.1/5 レビュー8件

"寺院・神社"

📍 4.42km

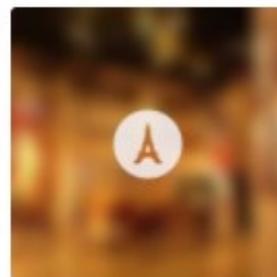


ISKCON Vrindavan

レビューはまだありません

"市のランドマーク"

📍 5.66km



Rail Transport Museum

レビューはまだありません

"博物館"

📍 5.73km



JustWravel

レビューはまだありません

"ハイキング"

📍 14.36km



チャタールプル寺院

4.5/5 レビュー6件

"その他の神社仏閣・聖地な

📍 13.66km



国立ガンディー博物館

4.5/5 レビュー33件

"記念館" "博物館"



国立ガンディー博物館

4.5/5 レビュー33件

"記念館" "博物館"

📍 3.1km



Worlds of Wonder

レビューはまだありません

"テーマパーク"

📍 11.27km



インディラガンジー記念

レビューはまだありません

"故居・著名人旧宅" "記念館"

📍 2.74km

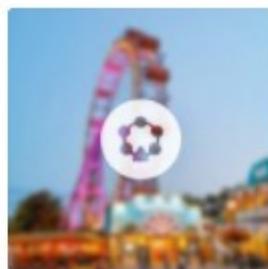


Tourist Drivers India

レビューはまだありません

"その他観光ツアー"

📍 5.36km

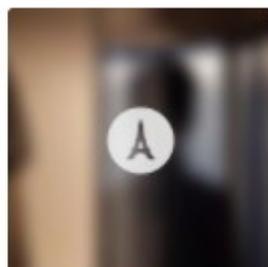


Tourist Drivers India

レビューはまだありません

"その他観光ツアー"

📍 5.36km



The Hidden Hour

レビューはまだありません

"脱出ゲーム"

📍 20.85km

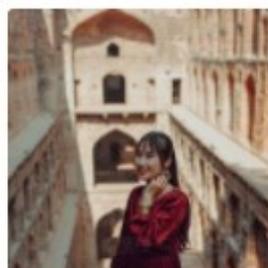


デリー国立動物園

4.4/5 レビュー23件

"動物園"

📍 2.56km



Agrasen Ki Baoli

4.5/5 レビュー5件

"史跡" "歴史的建造物"

📍 1.07km

赤い城



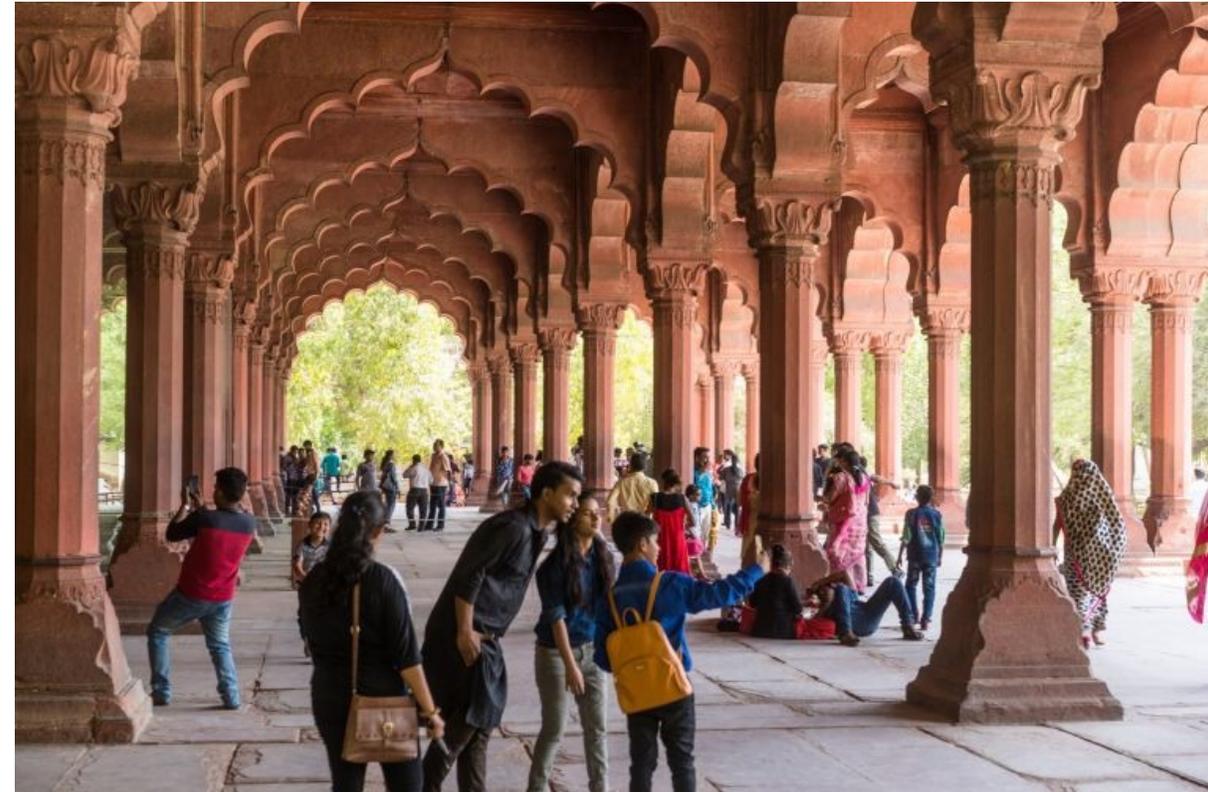
- レッドフォートはムガル皇帝の本邸として機能したインドのデリー市(旧デリー)の歴史的砦である。
- シャジャハン皇帝は1638年5月赤砦の建設を委託し、首都アグラからデリーに移ることを決め、もともと赤と白の設計は、タジマハルを建設した建築家ウスタド・アフマド・ラホリにクレジットされています。
- 1947年8月、インド初の首相であるジャワハル・ネフルーは、ラホリ門の上空にインドの国旗を掲げた。
- 毎年8月15日のインド独立記念日、首相は要塞の正門でインドの三色旗を掲げ、その城壁から全国放送の演説をする。

ムガル帝国の栄華と終焉、 そしてインド独立を物語る「赤い城」

- 赤砂岩の城壁に守られた赤い巨大な城塞、世界遺産（文化遺産）に登録されている。
- 城内には、ムガル帝国時代、約5万7千名の人々が住んでいた。
- 南の門は、主に皇帝が宗教行事に出かける際に利用した。
- 西の門は「ラホール門」と称され、主に高官や使節、貴族、官僚などの通用門であった。
- ラホール門をくぐった先のチャッター・チャウクと呼ばれる通りには、主に宮殿に仕える女官たちのためのアーケード付きの城内商店街があった。商店街の近くには、刺繍や彫金などの職人の工房が数多く存在したとみられている。
- 商店街と職人の工房の先では、宮廷づきの楽士たちが、皇帝の登場を告げる音楽を奏でた。
- 公謁殿（ディーワネ・アーム）には、かつてルビーやサファイア、エメラルドなどの宝石がはめ込まれていた王座があり、ここで皇帝は毎日正午頃に、一般謁見を行った。

[ニュー・デリー 赤い城 評判&案内 | トリップドットコム \(trip.com\)](#)

赤い城



公謁殿には、かつてルビーやサファイア、エメラルドなどの宝石がはめ込まれていた王座があり、ここで皇帝は毎日正午頃に、一般謁見を行った。

貴賓謁見の間である内謁殿の広間の壁には、インドのペルシア語詩人アミール・フスローの詩

「地上に楽園があるのならば、
それはここなり、こここそが楽園」
が、ペルシア語で刻まれている。

他にも祝祭の間（ラング・マハル）、既婚婦人の居所（ハース・マハル）などの宮殿が並ぶ。

ムガル帝国の栄華は永遠ではなかった。やがて赤い城は、ムガル帝国滅亡の舞台となる

ロータス寺院



インドのデリーにあるロータス寺院は、**1986年12月**に奉納されたバハイ礼拝堂。花のような形で有名で、市内の有名なアトラクションになっている。すべてのバハイ礼拝堂と同様に、ロータス寺院は、宗教やその他の資格に関係なく、すべての人に開かれている。建物は**27個**の独立した大理石で覆われた「花びら」が**3つ**に集まって**9つ**の側面を形成し、高さ**34メートル**をわずかに超える中央ホールに**9つ**のドアが開いている。ロータス寺院は数々の建築賞を受賞しており、多くの新聞や雑誌の記事で取り上げられている。**2001年のCNN**のレポートでは、世界で最も訪問された建物と呼ばれている。

インド門



- インド門（全インド戦争記念）は、ニューデリーの「儀式の軸」の東端、キングスウェイと呼ばれる位置にある戦争記念碑である。
- 第一次世界大戦で1914年から1921年の間に亡くなったイギリス・インドアン軍の7万人の兵士、フランス、フランドル、メソポタミア、ペルシア、東アフリカ、ガリポリ、近東および極東の他の地域での第三の英・アフガニスタン戦争の記念碑として立っている。
- 13,300人の軍人の名前が、イギリスから来た兵士や将校を含む城門に刻まれている。
- この城門はエドウィン・ルティエン卿によって設計された。ローマのコンスタンティヌス大公などの凱旋門の建築様式を呼び起こす。パリの凱旋門、ムンバイのインド門とよく比較されている。

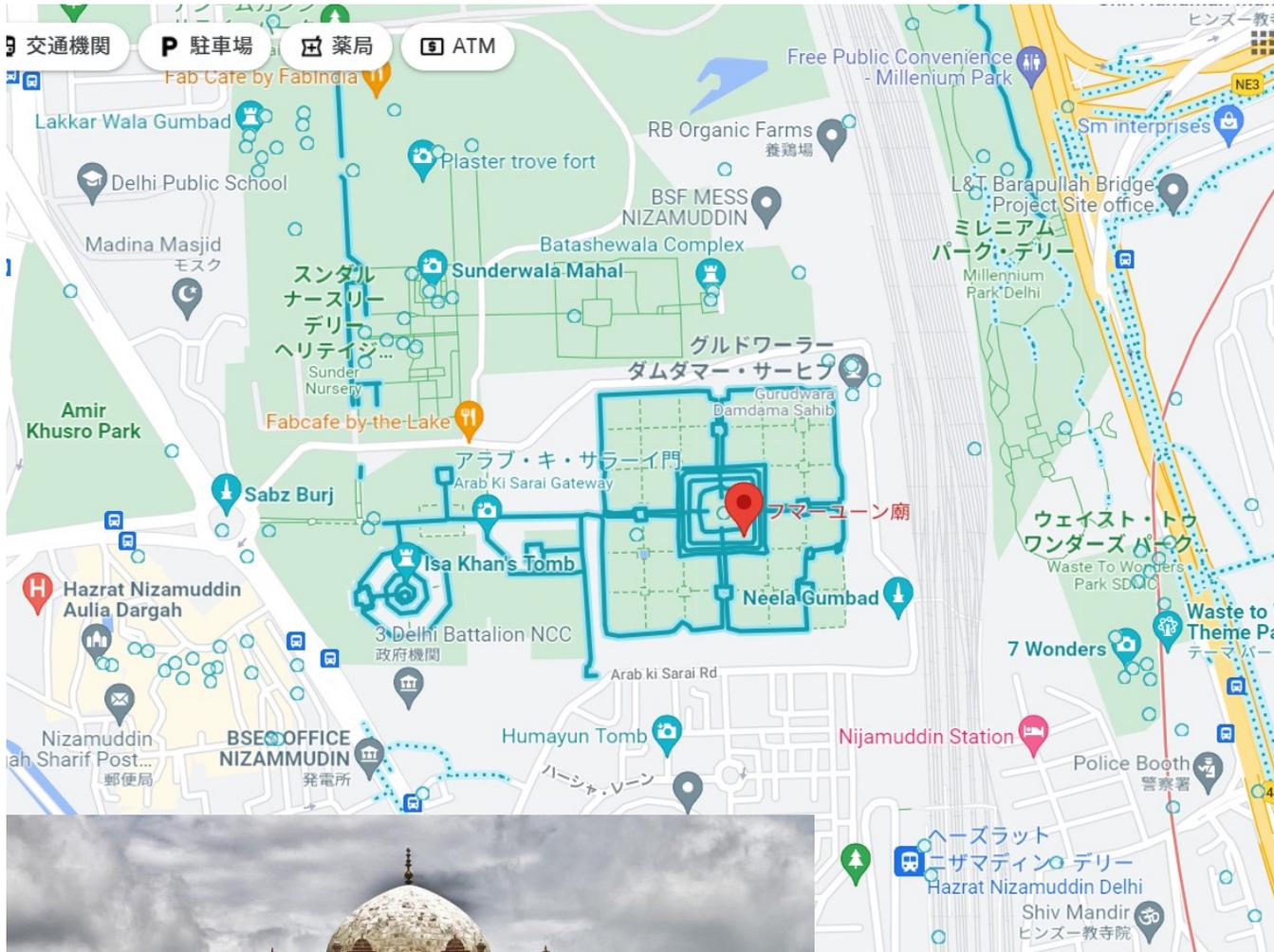
フマユーン廟 - Google マップ

最愛の妻に捧げた霊廟タージ・マハルが建つ100年前にも、インドでは配偶者の死を悲しむ王族の物語が残る霊廟がある。それが、インドの首都デリーの中心部東南端のプラーナ・キラの南に建つ「デリーのフマユーン廟」。

「デリーのフマユーン廟」はムガル帝国の第2代皇帝フマユーン霊廟と庭園から構成されるインドの世界遺産だ。

フマユーン霊廟はその名のとおり、ムガル帝国第2代皇帝フマユーンの遺体が眠る霊廟。

典型的な庭園霊廟で、庭園も建物も左右対称の「庭園の中の廟」といわれる、インド初のムガル様式の霊廟として、1983年にユネスコ世界遺産に登録された。





フマーユーン廟

夫の死を深く悲しんだ妃が、1565年に10年の月日を費やして建てた、ムガル帝国第2代皇帝の霊廟です。

庭園の中に廟を置いた小さいものだが、洗練された初期ムガル様式の傑作といわれる廟で、100年後に建てられたタージ・マハルなどの建設に多大な影響を与えた。

王妃がペルシアの出身だったため、ペルシア人の設計で作られている。ムガル帝国が最初に建てたペルシア系インド様式の壮麗な霊廟としても有名で、あまりにも美しかったことから「ムガル美術」という新しい芸術が誕生した。



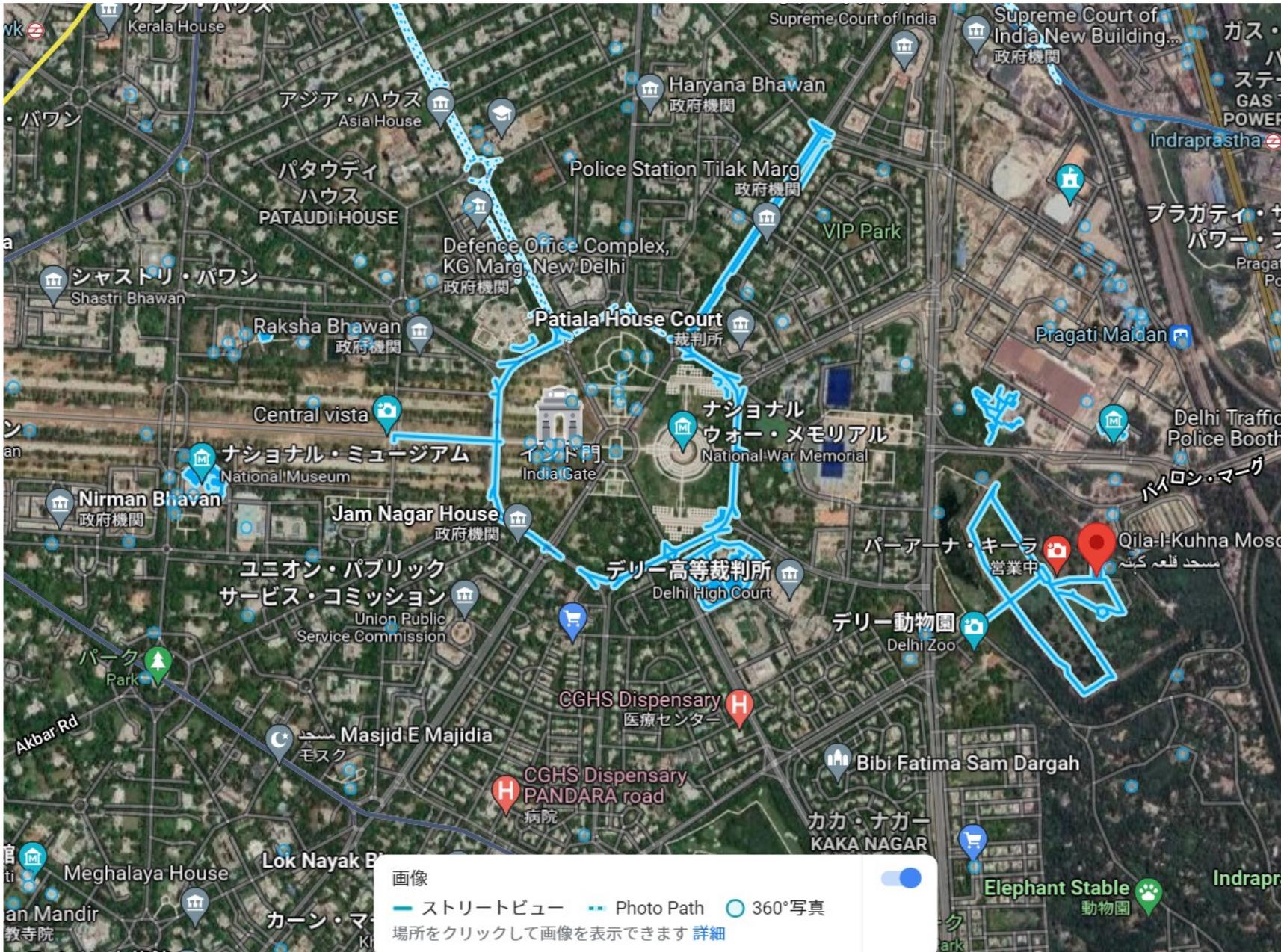
フーマユーンの棺は基壇の中央墓室に、四隅の墓室には妃など一族の棺が安置されている。中央にある王の墓室には偽装の棺があり本物の棺はこの地下にある。下にあるのがセノタフと呼ばれる石棺。

広い庭園のモデルとなったのが「旧約聖書」や「コーラン」に描かれているエデンの園だ。広い庭園は縦横の川を示す水路でマス目状に区画されていて、この4つの正方形にはそれぞれ木々が植えられ、水と緑の楽園が表されている。戦争に翻弄され、文学や芸術を愛した優しい性格のムガル帝国第2代皇帝フーマユーンは妻と子を深く愛した王だったといわれている。

庭には華麗なペルシアの庭園文化が導入され、インドの土着の装飾も取り入れられている。この時代に新しくできた芸術はとても美しく見る価値ありだ。

Qila-I-Kuhna Mosque - مسجد قلعه کهنه Google マップ

プラーナキラ



[プラーナー・キラール博物館 - Google マップ](#)

[パーアーナ・キラー - Google マップ](#)



インド門の東にある城。

16世紀半ばに建立、後にムガル帝国第2代皇帝フマユーンが都城として使用したもので、石積みの城壁が当時の姿を偲ばせる。

ムガル帝国が建造したなかではラール・キラールやアーグラール城よりも古い都城であることから「プラーナー・キラール」（古い城）と呼ばれる。

城内にはシェール・シャー・モスク、八角形の図書館跡などが残されている。

フマユーン帝は麻薬で朦朧としていたとき、この図書館の階段から転げ落ちて死亡したという説がある

[インド デリーでオートリキシャに乗ってみた！ デリー市内観光 - Bing video](#)

デリーの交通事情がわかる動画です。

The video player displays a first-person perspective from the driver's seat of a yellow auto-rickshaw in Delhi, India. The view through the windshield shows a busy street with various vehicles, including white cars and other auto-rickshaws. A yellow 'P' parking sign is visible on the right side of the road. The video player interface includes a title 'インド デリーでオートリキシャに乗ってみた！ デリー市内観光' in the top left, a '後で見る' (Watch later) button and a '共有' (Share) button in the top right, a progress bar at the bottom showing 6:25 / 13:02, and standard YouTube controls like play/pause, volume, and settings.

インドを旅しよう！インド旅行の豆知識

- 広大な国土と世界第2位の人口をもつインド。州境を越えるとまったく違う言語が話され、それぞれの文化芸術があるため、一言で「インドとは」と語るこのできないほど地理的にも文化的にも非常に多様性に富んだ国です。
- 長い激動の歴史の中で様々な宗教を生み出し、多くの文化遺産、自然遺産が残されてきました。過去の栄華を偲ばせる数々の歴史遺産、今もなお伝統を守り独特の習慣を受け継ぐ人々。
- インドで最も多くの旅行者が訪れるタージ・マハル、釈迦が覚りを得てブッダ(覚った人)となった仏教の聖地ブッダガヤのマハーボディ寺院など、見逃せない観光地が数多くあります。活気あるバザールやマーケットもインドの特色です。ショッピングではインドでしか手に入らないものを見たり買ったりすることも楽しみのひとつです。

食事について

- インド料理は、カレーだけでなく豆のスープやとり肉・野菜・スパイスなどを使った炊き込みご飯、アールーパラタ【薄焼きパンのなかにジャガイモを入れてバターで焼いたもの】など多様。どれもスパイスが効いているのが特徴です。
- ホテルのレストランには、中華料理もあります。
- ホテルでの朝食は、トースト・卵・ジュースなどの洋食もあります。
- 屋台のジャガイモのスナックなどもおいしいですが、古い油が使われていることがあるのでお腹をこわしやすい方は注意が必要。
- ミルクティーは最も一般的な飲み物、どこでもあります。
- 屋台のフレッシュジュースもおいしいですが、生水や氷を使うことがあるので注意が必要。
- ご心配な方は、胃腸が弱ったときのために、ふりかけやレトルトの味噌汁・お粥などをご持参ください。



ホテルについて

- ホテルの給湯設備はいくつかの部屋でひとつのタンクを共有しているタンク式のものが多く、湯温がぬるかったり、一斉に使うと出にくくなることがある。
- これは、給湯設備が沸かしたお湯をタンクに一定量溜め、少なくなればまた沸かして継ぎ足す、といった仕組みになっているためだ。
- 多くのお部屋で一斉にお湯を使うとタンクの貯えが無くなってお湯が出にくくなってしまう。

服装について

- 日差しよけ・冷房対策のために、薄手の長そでを用意すること。
- 大都市のホテルでも、正装の必要はない。
- ノースリーブ、ミニスカート、ショートパンツなどの服装での寺院見学は宗教上好ましくないので避けた方が良い。
- 原則的には、できるだけ軽快で行動しやすい服装がお勧め。靴も履き慣れたものがよく、特に女性は中ヒール以下がよい。
- シャツ類は、旅行中簡単に洗濯が出来、アイロンも不要なナイロンやテトロン製が最適です。洗濯セットをご持参になると便利です。
- ホテルには寝間着やスリッパはないので用意のこと。

飲み物について

- インドの水道水・生水は、衛生上、絶対に飲めない。飲料水としてはミネラルウォーター又は湯冷ましをむこと。
- 歯磨きの際も水道水ではなくミネラルウォーターを使う。
- ホテルやレストラン、町中の売店でも、安全なペットボトル入りの水が購入可能。
- 他に飲み物としては、コーラや「リムカ」というレモン味の炭酸飲料、ジュースなど各種ソフトドリンク類もある。
- インド国産ビールもホテルやレストランで購入できる。
- インドの国民的ミルクティー「チャイ」はどこでも飲める。



クトゥブ ミナールと 建築物

インド最大のミナレット（塔）
と各時代の遺跡が見られる。

この塔は高さが72.5mと圧巻。
奴隷王朝がヒンズー寺院を破壊
した時の石材で作られている。

庭園には、5世紀のグプタ朝時
代の鉄柱が今も残っており、錆
びない鉄として有名。

きれいに整備されているので、
安心して見学できる。

（1993年に世界遺産に登録）

[クタブ・ミナー - Google マップ](#)

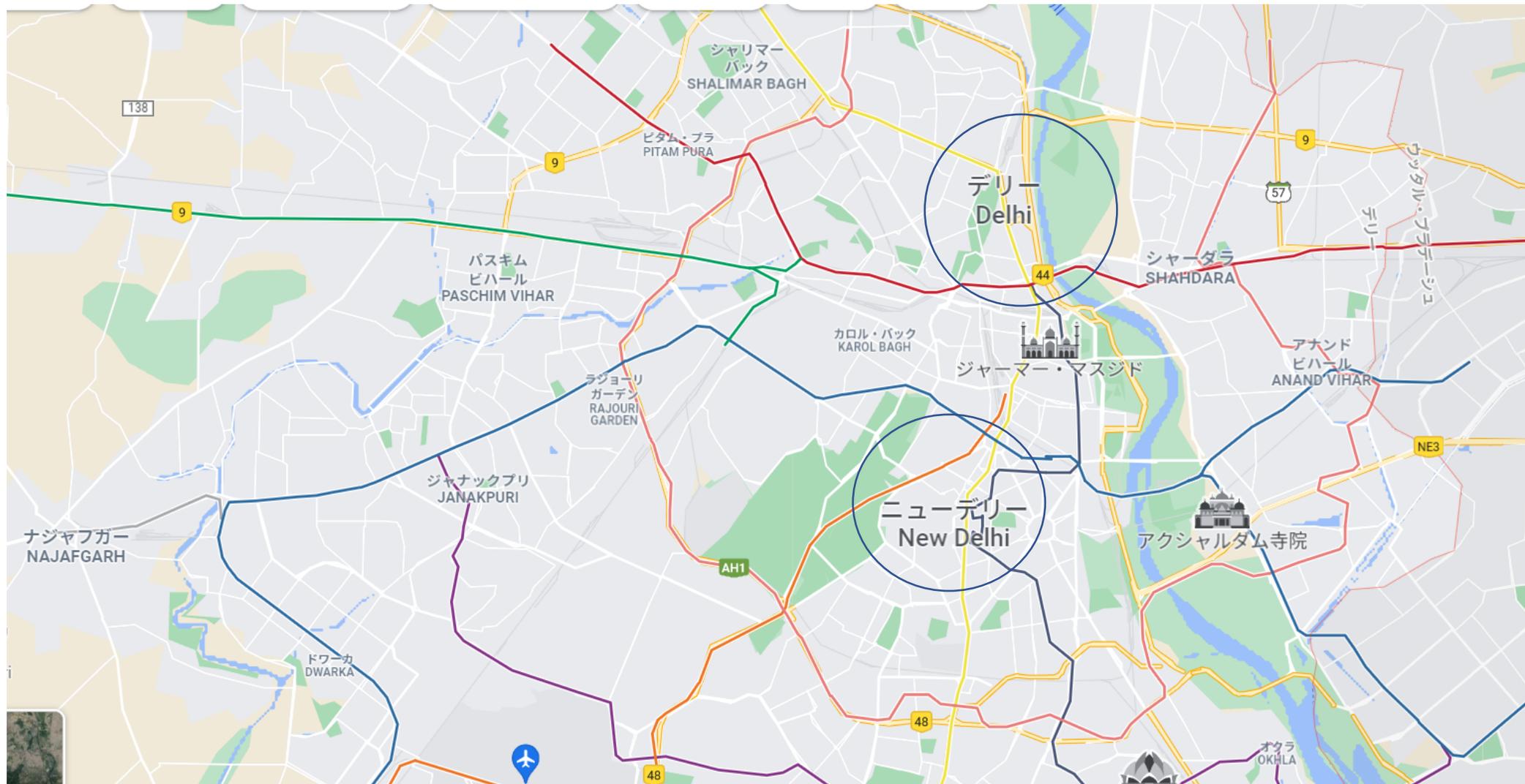
クトゥブ ミナール



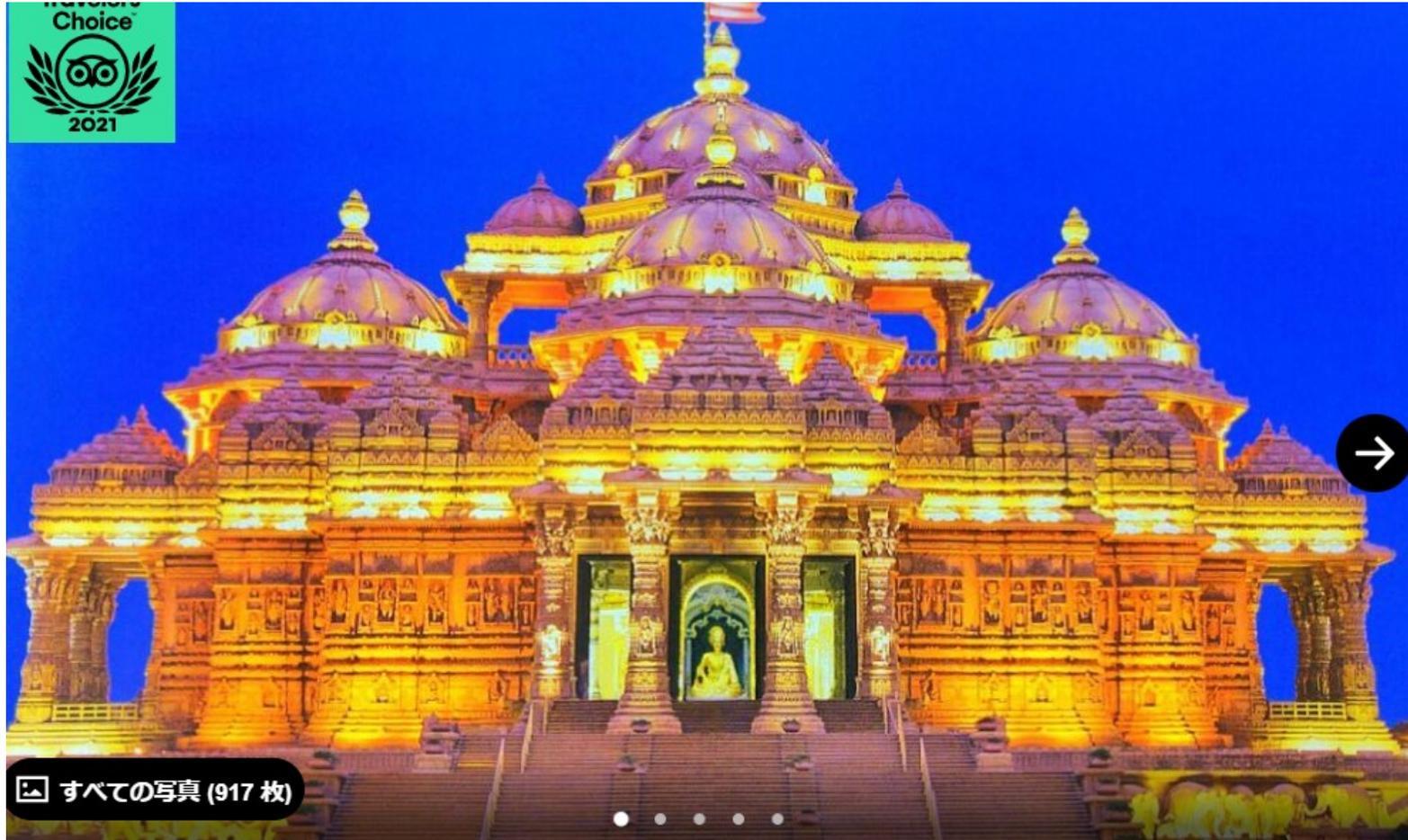
デリーとニューデリーの違い

- インドの首都はデリー。しかしニューデリーが首都と教わった人も多いのでは？
- デリーとニューデリーはひとつの都市圏を形成している。東京で言うところの、旧15区に対して新生の23区といった区分に近い。
- デリーはインドの首都であり、どこの州にも所属していない行政直轄区域と定められている。その地域全体がデリーであり、その中にデリーと表記される旧市街にあたるオールドデリーと、ニューデリーが存在する。
- 政府機能施設などはニューデリーに集中しているので、首都がニューデリーといった解釈がこれまでされてきた。
- オールドデリーは日本の東京に例えるならば浅草や上野といった下町。一方でニューデリーは山の手。
- 正しくはデリーという大きな街があり、その中にニューデリーと呼ばれる一角があることになる。

デリーとニューデリー



アクシャルダム寺院



1968年当時、BAPSスワミーナーラーヤン教の教祖ヨーギー・マハーラージが、ヤムナー川岸に巨大寺院建築の建設を構想。

彼の死後、後継者のプラムクが構想の遺志を継ぎ、デリー開発局への申請を経て、正式に建設が決定。

2000年4月に開発局から24万平方メートルの土地を与えられ、同年11月8日に工事が着工。2005年に竣工し、同年11月6日をもって正式に開院した。

オープニングセレモニーには、マンモハン・シン首相も訪れるなどした。2007年12月17日に、**世界最大のヒンドゥー教寺院としてギネスブック**に認定された。

アクシャルダム寺院



植物や動物、神々の彫刻が施された石造の寺院は、高さ43メートル、幅96メートル、長さ110メートルある。

ラージャスターン州産の砂岩やイタリア・カッラーラ産の大理石を使用するなど、**建築には鉄やコンクリートが使用されていない。**

他に象の彫刻やスワミーナーラーヤンの巨大な絵が掲げられている。

内部にある、スワミーナーラーヤンの生涯を動く人形やジオラマで表現したアトラクションや、模型の間を進みインドの歴史を辿るボートライド、同聖人に関連した内容の映画があるのも特徴。

アクシャルダム寺院

021





チャンドニー チョーク



チャンドニー チョーク (月光の市場)

- ここでは、あふれかえる活気の中でインドの暮らしの根幹、地元の屋台フードを味わったり、掘り出し物を探して買い物を楽しんだりしながら、刺激と魅力に満ちた地区の雰囲気をつぶり感じることができる。
- チャンドニー チョークは、17世紀にムガル帝国の君主であるシャー・ジャハンが開設したバザールで、デリーの旧市街(オールド デリー)にある。
- このバザールの名は「どろぼう市」という意味を持ち、電化製品、ビンテージの衣類、アンティーク家具、香水など、さまざまな商品がずらりと並んでいます。
- お気に入りの物を見つけたら、地元の商人を相手に値段交渉のテクニックを試してみてください。

オールドデリー



[ANONYMOUS Guy - Google マップ](#)



チャンドニー チョーク (月光の市場)



[チャンドニー チョーク - Bing images](#)



チャンドニー チョーク







[design swork studio - Google マップ](#)



ディガンバラ・ジャイン・ラール寺院



Satpal Jat - Google マップ



[Krishi Bhawan, New Delhi - Google マップ](#)



[Ministry of Finance - Google マップ](#)

ニューデリーの市中



[Google - Google マップ](#)

国立博物館



2022年1月26日（水）
インターネット世界旅行

インド

デリー、ニューデリーの巻

終わり

吉岡 芳夫